

2019. 9. 16

報告者

ガイナカヤックス 森山 尚

- 開催日：令和元年(2019) 9月14日(土)～9月15日(日)
- 会場：学科 島根県出雲市荻苅町274-2 パブリックスペース和(なごみ)  
陸上指導技術、水上実技検定、安全技術研修 島根県出雲市大社町日御碕おわし浜
- 主管：ガイナカヤックス
- 検定員：森山 尚(カヤックベーシック検定員SK2)
- 補助者：森山 敬介(C公認スクールNature Guide遊び屋 代表)
- 受験者数：2名、合格者数：2名

#### ■開催概要

**学科検定 令和元年(2019) 9月14日(土) 9:00～18:00**

会場：パブリックスペース和(なごみ)

イントロダクション 9:00～9:30

- ・学科1 総論：担当 森山 尚  
講義：9:30～11:00  
休憩、復習：11:00～11:30  
学科1筆記試験：11:30～12:00

所見) インストラクターガイド個人及び協会に求められる社会要求の変化の変遷をお話した際、責任は重くなってきているもののその分社会的認知や必要とされる存在になってきているのだと受験者の方と認識を共有しました。

昼食、休憩：12:00～13:00

- ・学科2 安全について：担当 森山 尚  
講義：13:00～14:30  
休憩、復習：14:30～14:45  
学科2筆記試験：14:45～15:15

所見) ワークショップ形式を中心にし、お互いの意見を引き出し、共有する実践さながらの熱論展開をしました。スクールスタッフ準備ミーティングの雰囲気さながらでした。

休憩：15:15～15:45

- ・学科3 パドルスポーツの基礎知識：担当 森山 尚  
講義：15:45～17:15  
休憩、復習：17:15～17:30  
学科3筆記試験：17:30～18:00

所見) ギア、技術は実物を、フィールドは写真、模型等を用い実践に近い内容としました。

## 実技検定 令和元年(2019) 9/15 (日)

会場：島根県出雲市大社町日御碕おわし浜

天候：晴れ、気温：24～25℃、水温：25℃、風速：北東 5m/s、湾内波静穏かつ微風の状況

陸上指導技術検定 9:00～11:00

水上漕艇技術検定 11:00～12:00

休憩 12:00～13:00

安全技術研修 13:00～16:00

所見) 陸上指導技術は受講者役に初心者の方に協力してもらい実戦式で実施しました。

安全技術研修は参加者の経験が豊富だったのでメニュー多めに実施しました。



## ■検定会実施所見

### (1) 学科検定

受験者の方はキャリアも長く、経験も豊富だったので講習をするというよりお互いに研修をする感じで展開しました。私目も含め視点が変わるとお互いなるほど！と新しい気づきも多かったです。学科内容や活動概念に関する事も、今までフィールドで話し合うことが多く、結果優秀な成績を収められました。

### (2) 陸上指導技術検定

陸上指導は両名とも経験が豊富だったので、初心者役の方を迎えての実戦形式講習も難なくクリアされました。初心者役の方からのするどい質問も臨機応変にユーモアも交えて答えられ、知識と経験、実戦の度胸をお持ちだなと感じました。初心者役の方も分かりやすかったという好評をいただきました。

今回の講習内容は挨拶、PFDの着用～フィッティング、パドルホールド、フォワードストローク、スウィープストローク、ストップング、カヤック（シーカヤック）の乗り方、おり方、スプレースカートの付け外し、沈した際の脱艇方法～行動手法とひとつとおりにやってみました。採点はその流れの中で判断しました。（スプレースカートは採点対象外ではあることを受験者に説明した上でかつ、実際に使用されるのでしっかりやってもらいました。）

### (3) 水上漕艇技術検定

全体的にトルソローテーションを意識された丁寧な漕ぎをされました。今後も一緒に初心者講習会、特訓会やツーリングをする機会も多いので今後も継続したレベルアップを希望されております。

### (4) 安全技術研修

安全技術研修は、まず次の基本内容を行いました。

#### ①基本内容

- 1) セルフレスキュー1：スクランブルレスキュー（馬乗りレスキュー）
- 2) セルフレスキュー2：パドルフロートを使った再上艇
- 3) アシストレスキュー：Tレスキュー（シーカヤック）、シットオンカヤックを想定したアプローチ手法  
レク艇によくあるレスキュー手法（バウはフォーム材、前後浮力体等、TXレスキュー）
- 4) カウテールやロープを使ったけん引、岸等の引っ掛かりからの脱出
- 5) 陸に座礁する前や係留中の動力船に接触するまえの回り込みブロック
- 6) 沈脱後カヤック、人、パドルがばらばらになってしまった場合のリカバリー手法
- 7) 上記各種レスキューを行うために必要なカヤックコントロール各種練習
- 9) バリアチェック、スカウティング意見交換

#### ②追加内容

今回の受験者は当スクールの特訓会や初心者講習会に良く参加されるのもあり、追加で次のメニューも行いました。

- 1) ありがちだけどやったら怖いシリーズ
  - ・前後ハッチオープンでの転覆→カヤック完全沈没（子どもやペットをハッチに乗せるパターン1）
  - ・前ハッチオープンでの転覆→スターン浮き状態（子どもやペットをハッチに乗せるパターン2）からのレスキューにトライ。
  - ・スカートなしでのレスキュー → イントラのカヤックピンチ状態を体験してもらう。
- 2) バウレスキューとロール

ことレスキューに関しては要救助者にとってはイントラのカテゴリなど関係なく早く助けて欲しいという面から早期のスキルアップと、レスキューが必要な状況になる前の予防策に重きを置くことを実践しました。これから自分が引率する立場になることを重く感じることで、自信が持てるようになること、このあたりのバランスが伝える側として配慮しなくては、と考えておりましたが、今回の参加者は経験、意欲、スキル、習得スピードも高く熱心に取り組んでいただきました。

#### ■全体を通して

両名とも検定合格後も近い所で共に活動する機会を多く設け、お互いの情報交換、研修を実施する環境にあり、それを熱心に希望されているので私目も含め、お互いにレベルアップを図っていきたいです。

今回は今までより実戦の色を濃くしました。結果検定時には良い化学反応がおき最大限の能力発揮とその場でのレベルアップも出来ました。

両名ともご自身のフィールドでは年1～2回、ボランティア的に子どもさんや親子連れをカヤックに乗せる機会があり、その中で資格を所得してしっかりとした体制を整えてやらなければという高い志で参加されました。現実的には公認スクールを開く段階とは言えず(ニーズによっては将来的にはと考えてはいらっしゃいますが)その反面には学科総論にもあるように社会的責任もついてきます。クラブ的活動から事業としての展開の狭間でゆれる状況ですが、これもまた現実ですので、できうる限りの支援をし、良い打開策がないものか思案したいと考えております。